

令和7年度自己評価表

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校
学校番号 35

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 －思いやる心 自律の心 挑戦する心－ 『ものづくりから人づくり・夢づくり、安心・安全で信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成(ボランティア活動の推進)
------	---	--------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	生徒による授業評価を基に教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。相互授業研修期間を含め、校内外で一人年間5回以上、授業参観や教科の研修を行い、授業力向上に努める。 (授業の理解度(ポイント)) A:3.0以上 B:2.9～2.7人 C:2.6～2.0人 D:1.9～1.3人 E:1.2～1.0人 (相互授業研修参観回数(年)) A:5回以上 B:4～3回 C:2回 D:1回 E:0回			
	基礎学力の向上	定期的に家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。定期的実施しているエスタブリッシュメントテストの充実を図る。 (家庭学習時間(平日1日あたり)) A:1時間以上 B:59～45分 C:44～30分 D:29～15分 E:15分未満 (家庭学習時間(テスト期間1日あたり)) A:3時間以上 B:3～2時間 C:2～1時間 D:1～0.5時間 E:0.5時間未満			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	校門指導、教科指導、部活動指導を通して挨拶を励行させる。 頭服指導を徹底し、本校生徒としての品位を失わないような身だしなみを心がけさせる。 (挨拶のできる生徒) A:75%以上 B:74～60% C:59～45% D:44～30% E:30%未満			

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

令和7年度自己評価表

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	社会規範の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通して生徒の規範意識を育成する。 (交通事故発生件数(年)) A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件			
進路指導	就職指導の充実	キャリア教育を充実させることにより、望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。 (就職試験の1次合格率) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満			
	進学指導の充実	生徒一人一人の希望に合わせた進路相談や進学情報の発信を積極的に行い、大学・専門学校などへの第1志望合格率90%以上を目指す。 (大学・専門学校などへの第1希望合格率) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満			
特別活動	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えるとともに意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。 (ボランティア活動等の参加1人当たりの回数) A:1回以上 B:~3/4回 C:~1/2回 D:~1/4回 E:1/4回未満			
	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。 (部活動の加入率) A:95%以上 B:94~80% C:79~65% D:64~50% E:50%未満			
人権教育	人権啓発の推進	人権・同和教育ホームルーム活動や講演会、「人権だより」などを通して人権尊重の意識を高める。 (人権尊重の高揚) <u>A:75%以上 B:74~60%</u> <u>C:59~40% D:44~30%</u> <u>E:30%未満</u>			

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

令和7年度自己評価表

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
工業教育	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数（3年間）6個以上を目指す。 A:6.0個以上 B:5.9～4.0個 C:3.9～2.0個 D:1.9～1.0個 E:1.0個未満			
	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」に関わる行事に参加する。活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。 (ものづくりに意欲的に取り組めた生徒) A:90%以上 B:89～75% C:74～50% D:49～30% E:30%未満 (公開講座・出前授業等参加1人当たりの回数) A:1回以上 B:～3/4回 C:～1/2回 D:～1/4回 E:1/4回未満			
学校安全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。 (危機管理模擬訓練（年）) A:3回 B:2回 C:1回 D:-回 E:0回 (予告なしの防災訓練（年）) A:1回以上 B:-回 C:-回 D:-一回 E:0回			
業務改善	教職員の業務改善	ワーク・ライフ・バランスの適正化を図る。教職員の働き方改革を進め、休暇の取りやすい職場環境を整える。 (時間外勤務時間80時間（月）以下の教職員の割合・有休年10日以上取得率・ワーク・ライフ・バランスがとれていると感じる教職員の割合) 各 A:90%以上 B:89～70% C:69～50% D:59～40% E:39%以下			

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。